

問題No.1

今年7月1日よりタバコの価格が値上がりした。これを受け喫煙人口の減少が予想されるなか、外食やサービス業界でも喫煙者・非喫煙者に対応する動きが見られる。

業態と禁煙・喫煙に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. ハンバーガーチェーン店が全面禁煙にしたところ、売上が大きく減少したため、分煙席への変更を進めている。
2. 全面禁煙の居酒屋業態を開発したところ、深夜の顧客がほとんど入らなくなった。
3. 全面禁煙の居酒屋業態を開発したところ、宴会予約がほとんど入らなくなった。
4. 某一流ホテルでは、全面禁煙の「癒しと健康のフロア」を設け、そのフロアについては顧客から喫煙要望があっても受け付けていない。

【解説】

4. 某一流ホテルでは喫煙要望があり、受け付けるようになった。

答 4

問題No.2

J R東日本が展開している電子マネー「Suica」と提携している企業とサービスに関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

1. ビックカメラ …… 割引ポイントを電子マネーに交換するサービスを開始した。
2. NTTドコモ …… 携帯電話で買物の決済をできるモバイルSuicaのサービスを開催した。
3. 日本航空 …… 航空機のマイルを電子マネーに交換するサービスを開始した。
4. セブン・イレブン …… コンビニエンスストアでの買物がSuicaのできるようになった。

【解説】

- Suicaのできるコンビニはファミリーマートとローソン。(平成18年9月時点)

答 4

問題No.3

まちづくり三法の見直しに伴い、改正都市計画法で立地規制が変更しない用途地域は次のうちどれか。

1. 第一種住居地域
2. 第二種住居地域
3. 準住居地域
4. 工業地域

答 1

問題No.4

百貨店業界では今後の成長戦略として郊外エリアへの出店があげられ、実際に郊外へ進出している例も見られる。郊外型百貨店の成立条件として考えられる要素に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 商圏人口が最低15万人、できれば30万人あること
2. 至近距離の競合施設との売場面積格差が1.0～1.4倍以上であること
3. 都心エリアとの時間距離が10km圏(30分)以上離れていること
4. 商圏のマーケットレベル(生活者の所得・消費意欲)が中～中上と高いこと

答 3

問題No.5

GMS業界では、立地や敷地条件に合わせた新業態開発に積極的に取り組んでいる。業態とその特徴に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 小商圏型食品スーパー …… 都市部周辺の人口密度の高い立地に出店、売場面積1000㎡程度
2. スーパーSM …… 品揃えで周辺のSMと差別化できる大型食品SM、2500～3300㎡程度
3. 小商圏型GMS …… 人口密度の高い駅前立地などに出店、売場面積10,000～15,000㎡程度
4. 本格的GMS …… 郊外立地の大型SCの核店舗として出店、売場面積30,000～35,000㎡程度

【解説】

4. 売場面積は15,000～20,000㎡程度。

答 4

問題No.6

ショッピングセンターの業種業態構成を計画する際に行うマーケット調査に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 国勢調査や商業統計による統計分析調査
2. 商圏内の生活者100～500人程度を対象とした電話聞き取りによるテレマーケティング調査
3. 消費者の嗜好や買物特性を直接聞き取る10～20人程度のグループインタビュー調査
4. 個人の1日の生活を具体的に聞き取るデプス調査

答 4

問題No.7

生活者は購買動機によって利用するSCを使い分けている。SCタイプとその説明に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. ネイバーフード型SC
…… 食品スーパーやドラッグストアを中心とした、日常の買物を中心としたSC
2. パワーセンター

…… 価格破壊力と圧倒的品揃えを武器とする大型専門店やカテゴリーキラーを集めたSC

3. 本格的SC

…… 核店 (GMS、百貨店) に専門店が一体化した生活ワンパッケージ型SC

4. ライフスタイルセンター

…… 自然環境とデザイン環境を融合させた、生活提案性の高い中広域型SC

【解説】

4. 中広域型ではなく、地域密着型。

答 4

問題No8

平成17年度調査で、商店街の大きな問題としてあげられた次の項目のうち、最も順位の高かったもの (最も大きな問題と認識されているもの) はどれか。

1. 商圏人口の減少
2. 駐車場がない
3. 後継者問題
4. 大型店に客足をとられている

答 4

問題No9

スーパーマーケット業界は、新業態SMやSC業態の開発などドミナントエリアの拡大に取り組んでいる。次のSM企業と保有業態の組み合わせについて、誤っているものはどれか。

1. イズミ …………… ゆめタウン
2. ヨークベニマル …… ヨークタウン
3. ライフ …………… Foodexpress
4. マルエツ …………… リンコス

答 3

問題No10

フランチャイズチェーン (FC) に関する記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. FCは加盟店同士の横のつながりが強い。
2. FCの本部には商品を仕入れるセクションとして、商品部、販売促進を企画する販売促進部がある。
3. 本部で物流の施設や機能をもって加盟店に商品を供給していく場合には物流部などが存在している。
4. FCは本部 (フランチャイザー) が経営を行っていくところであり、本部の経営に同意したものが加盟して契約店 (フランチャイジー) となる。

答 1

問題No.11

次の商業施設と業種業態に関する次の組み合わせのうち、最も不適当なものはどれか。

1. アウトレット …………… 横浜ベイサイドマリーナ
2. カテゴリーキラー …………… トイザラス
3. S P A …………… ユニクロ
4. ホールセールクラブ …………… 全日食チェーン

答 4

問題No.12

店舗と出店場所・業態特性等の関係性を述べた次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 大型書籍店 …………… 男女ともにニーズが高いため、1階の最も目立つ区画に導入した。
2. クリーニング店 …………… 目的性が高い生活サービス店舗なので、1階の目立たない区画に導入した。
3. 人気アパレルショップ …… 集客力のある店舗なので、顧客があまり回遊しない上層階に導入した。
4. ドラッグストア …………… デイリーニーズが高い店舗なので、食品売場の中に導入した。

答 1

問題No.13

オフィスビルの下層階に導入する商業態に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. デイリーニーズに対応するコンビニエンスストア
2. 歯科や皮膚科などのクリニック
3. ランチャやアフター5に利用できる居酒屋
4. 仕事の息抜きに楽しめるカラオケボックス

答 4

問題No.14

大量の団塊世代が定年を迎えるにあたり、商業態も変化が求められている。元気なリタイア層（アクティブシニア）を意識した動きとしての次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 百貨店が色やデザインの新々しい50代以上向け婦人服売場を自主編集した。
2. 団塊世代の趣味で人気の高い“旅行”をテーマにしたファッション店舗を開発した
3. ハンバーガーチェーンが定年制度を廃止にし、高齢でも働けるようにした。
4. フィットネスクラブが体への負担が少ないヨガや気功をメニューに取り入れている。

答 3

問題No.15

環境問題に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 廃棄物処理の問題とリサイクルの問題と商業は深い関わりあいがある。
2. 商業は環境問題に敏感であればあるほど、様々な方向に展望が開ける。
3. 競争の厳しい工業製品の開発では、リサイクルを視野に入れた開発など出来ない。
4. スーパーや外食産業が出す生ゴミは年間600万トンあり、そのリサイクル率は1%である。

答 3